

## WHOの主軸指標セット(案) について

### 1 WHOの取組状況

WHOは平成19年(2007年)に「エイジフレンドリーシティガイド」を発表したが、その中で「高齢者にやさしい都市に不可欠な特徴のチェックリスト」を示し、普遍的な基準とすることを意図とした自己診断ツールを示した。

その後、都市におけるエイジフレンドリー度を測定する指標セットの必要性から、現在その開発に取り組んでおり、公表準備を進めている。

時期	場所	取組内容
2012年(平成24年)	WHO神戸センター	世界全域で貯蔵している指標を調査し、文献等から195の指標リストを収集。
	スイス国際会議	指標領域を明確化した上で、指標リストを61に絞り込み。さらに今後、開発する指標の予備調査について調査方法・手順等を検討。
2013年(平成25年)	—	61の指標について予備調査を実施、15カ国18都市から合計28の調査回答を得る。
	WHO神戸センター	上記予備調査結果を基に上位ランク指標で暫定リストを作成。草稿指標の枠組みを作成。
	カナダ国際会議	上記暫定リストをもとに、指標をさらに絞り込み、指標の枠組み、定義等を検討。
2014年(平成26年)	WHO神戸センター	コア指標を特定し、それに関するガイドの草稿を完成。現在ガイドの試用に参加する都市を募集、そのレポートを参考に、最終的な指標ガイドを完成予定。ガイドの完成および公表は2015年(平成27年)の予定。

### ○主軸指標セット案

本指標セット案については、2014年5月、WHO神戸センターより聞き取りした内容について、本市独自に内容をまとめたものであり、その後WHOは指標セットの改善を重ね、2015年に正式発表予定である。

領域	指標	定義	望ましいデータ資料
屋外スペースと建物	近隣の歩きやすさ	主観定義 車いすその他の歩行器の使用を含め、居住地域の環境が歩行に適していると回答した高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢居住者へのアンケート</li> <li>市道での現地調査</li> <li>都市計画、道路設備に関する管理資料</li> </ul>
		客観定義 アクセシビリティの関連基準を備えた歩道がある、近隣の街路比率	

屋外スペースと建物	公共スペースと建造物へのアクセシビリティ	主観定義	居住地域の公共スペースと建造物が、身体・視覚・聴覚に障害を持つ人を含む万人にとってアクセスしやすいと回答した高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・新築および既存の公共スペースと建造物の現地調査</li> <li>・都市計画、建造物の安全性・許可、駐車場に関する管理資料</li> </ul>
		客観定義	車椅子で移動可能な新築、および既存の公共スペースと建造物の比率	
交通機関	公共交通機関の車両のアクセシビリティ	主観定義	公共の交通機関の車両が、身体・視覚・聴覚に障害を持つ人を含め、万人にとって物理的にアクセスが良いと回答した高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・地域の公共交通機関（交通局）の管理資料</li> </ul>
		客観定義	高齢者あるいは障害者専用のスペースを設けている公共交通機関の車両比率	
交通機関	公共交通機関の停留所へのアクセシビリティ	主観定義	公共交通機関の乗り場が自宅から遠すぎると回答した高齢者の比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・地域の公共交通機関（交通局）または都市計画課の管理資料</li> </ul>
		客観定義	公共交通機関の乗り場から徒歩500mの範囲内にある住宅比率	
住居	住居の確保・維持の可能性	主観定義	居住地域における一般的な住居費が、負担できる範囲内であると回答した高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・家計調査</li> <li>・経済課または住宅課の管理資料</li> <li>・公共の支出報告書</li> </ul>
		客観定義	住宅に対する支出が、等価可処分所得の30%未満である高齢者比率	
尊敬と社会的包摂	高齢者を支持する社会的態度	主観定義	尊敬され、地域の一員と見なされていると実感している高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・地方自治体の管理資料</li> <li>・市民団体の地域内登録</li> </ul>
		客観定義	高齢者に対して擁護サービスを実施している地域コミュニティに、積極的に関与している組織の数 年齢差別に関するクレームの数	
市民参加と雇用	ボランティア活動への関与	主観定義	先月、無償ボランティアに最低1回関与したと回答した高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・自治体の管理資料</li> <li>・公的/民間のボランティア組織からの報告</li> </ul>
		客観定義	地域のボランティア団体が報告した、上記の主観的定義	

市民参加と雇用	有償労働への関与	主観定義	有償の労働の機会があると回答した高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート</li> <li>・労働統計</li> </ul>
		客観定義	今現在、最低1時間/週、有償の労働に就いている高齢者比率	
社会参加	社会文化活動への関与	主観定義	先週、自らの意志で最低1回、社会文化活動に参加したと回答した高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・自治体文化交流部の管理資料</li> </ul>
		客観定義	各関連施設などの報告にもとづく、地域の社会文化活動に参加した全成人のなかの高齢者比率	
社会参加	地域の意志決定への参加	主観定義	重要な政治、経済、社会問題における意志決定に携わっていると回答した高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・地方自治体の管理資料</li> </ul>
		客観定義	直近の地域構想において投票権を有する高齢者比率	
情報とコミュニケーション	情報の入手可能性	主観定義	地域において、福祉相談やサービスに関する情報が入手しやすいと回答した高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・行政の福祉課の管理資料</li> </ul>
		客観定義	福祉相談およびサービスについて定期的に提供される行政・民間双方による情報源の数 地域の福祉相談やサービスに関して電話窓口を設けている情報源の数	
地域福祉と保健サービス	社会福祉および公共医療サービスの利用可能性	主観定義	在宅医療、福祉等のサービスの必要があり、それに対して十分な公的サービスを受けられていると回答する高齢者の割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・健康・福祉サービスに関する自治体の管理資料</li> <li>・在宅健康サービスおよび福祉サービス提供者の地域内登録</li> </ul>
		客観定義	在宅介護、日常生活支援等のサービスを提供する地域自治体の機関・団体の数	
その他	QOL	主観定義	「大変悪い=1」から「大変良い=5」のうち、自身の総合的なQOLを「大変良い=5」および「良い=4」と評価した高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・自治体保健部の管理資料</li> </ul>
		客観定義	出生時の健康寿命	

その他	個人財政的保障	主観定義	行政・民間いずれの支援もなく、これから先1年間、必要最低限の要求を満たす十分な収入があると回答した高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・労働統計</li> <li>・経済課の管理資料</li> </ul>
		客観定義	貧困リスク世帯の閾値以下の等価可処分所得世帯の高齢者比率	
その他	人口帰属リスク	定義	全ての下位集団が準拠集団として同率を有するとして、改善可能点を示す不等式測定。準拠集団とは、利害関係集団において最高結果または最高社会経済的地位にある集団のことである。	<p>集団寄与リスク＝絶対不等式と改善可能点の測定の合計集団数比率マイナス準拠集団における利害関係者の結果比率。</p> <p>集団寄与リスク比率＝関連する不等および比例改善点の全集団の総合測定率÷集団寄与リスク</p>
その他	最良グループと最下位グループとの不等式	定義	利害関係集団における、最良グループ（最高の結果または最高の社会経済的地位にある下位集団）と最悪グループ（最悪の結果または最低の社会経済的地位にある下位集団）の集団結果の差異の重要性	<p>差異＝絶対不等式測定において、最良下位集団の指標の平均値から最低下位集団の結果の平均値をひいたもの</p> <p>対比＝最低下位集団における結果の平均値÷関連する不等式測定の最良下位集団の指標の平均値</p>

○ 主軸指標とともに活用すべきと考えられている指標

領域	指標	定義		望ましいデータ資料
交通機関	指定優先駐車スペースへのアクセスのし易さ	主観定義	高齢者/障害者ドライバー用の特別許可証を持っている高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・都市計画、建造物の安全性/許可、駐車場に関する管理資料</li> </ul>
		客観定義	高齢者/障害者専用に設けられた、新築および既存の公共施設の駐車スペース比率	

住居	住宅へのアクセスのし易さ	主観定義	自身の住宅が、老後を過ごすためのニーズに適している、または適合性があると回答した高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・住宅課の管理資料</li> </ul>
		客観定義	完全に車イス対応が可能な新築および中古住宅の比率	
社会参加	スポーツ活動への参加	主観定義	先週、最低1回はスポーツ活動に参加したと回答した高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・行政の管理資料</li> <li>・スポーツクラブ/スポーツ施設から報告された会員の人口統計データ</li> </ul>
		客観定義	完全に車イス対応が可能な新築および中古住宅の比率	
社会参加	生涯学習	主観定義	過去1年以内に、公式/非公式で教育訓練や研修に登録したと回答した高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・市教育課の管理資料</li> <li>・私的/公的の教育研修機関への登録データ</li> </ul>
		客観定義	過去1年以内に、公式/非公式で教育訓練や研修に登録された高齢者比率	
地域福祉と保健サービス	身体活動のレベル	主観定義	あまり体を動かさない、どちらかと言えば動かす方だ、活動的だと回答した高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> </ul>
		客観定義	N/A (該当なし)	
情報とコミュニケーション	インターネットへのアクセス	主観定義	自宅でインターネットにアクセスしていると回答した高齢者比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢居住者へのアンケート</li> <li>・公的/民間インターネット会社から報告されたインターネット・ユーザーの人口統計データ</li> </ul>
		客観定義	自宅でインターネットを使える環境にある高齢者比率	